# 西浮通信

令和５年２月２８日
ＮＯ．３８９
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる


## 「五風十雨」に学ぶ　～試練こそ成長のチャンス！

校長　小島　みつる

先日、４年生の社会科見学で浅草に行きました。浅草では台東区の観光ボランティアさんが４年生の少人数グループに一人ずつ付いて、浅草について説明してくれました。４年生の学習のねらいはもちろん浅草観光ではなく、「昔の人の生活を知り、先人の知恵と努力を知る」「文化財の良さに気付き受け継いでいる地域の人々の願いについて考える」といったことです。

さて浅草のシンボルといえば雷門。これは通称で正式には「風雷神門」と言い、門の左右に風神、雷神像が置かれています。この風雷神門の説明の中で「五風十雨」という言葉に出会いました。ボランティアさんの説明では、「稲が育つには、５日ごとに風が吹き、１０日ごとに雨が降るとちょうどよい。だから、雨と風の神様を祭っている。」とのことでした。（なるほど）と思いながらも、もう少し詳しく知りたいと思ったので、家に帰ってから調べてみました。

まず、「五風十雨」とは、「気候が穏やかで植えた稲が順調に育つ」「豊作の兆し」ということから「世の中が平穏無事であることのたとえ」として遣われる言葉でした。また、なぜ稲作に風が必要なのかも調べてみました。苗のとき、まだ土の中に根が十分に根付いていないときに風が吹くと、苗は飛ばされないように細い根がぐっと土の中で踏ん張るのだそうです。そのたびに根は強くなり、土にしっかりと根付いていきます。つまり風が吹く度に根は太くたくましくなり、養分を吸収していくようになるのです。風が吹かないと、根はいつまでも細いままなのだそうです。

なるほど…これは、私たち人間も同じではないでしょうか。暖かく気持ちの良い日差し、太陽は必要です。でも時には冷たく厳しい風が吹き付けることも、必要なのではないでしょうか。冷たい風に吹かれた時こそ、私たちもぐっと根を張り、踏ん張る力がついていくのではないでしょうか。子供たちはまだ、苗の状態です。冷たい風が吹くと根が細くて吹き飛ばされそうになるかもしれません。倒れてしまいそうになるかもしれません。でも、そのようなときこそ自分を成長させるチャンスだと考え、工夫をしたり、ぐっと我慢したり、仲間の苗と力を合わせたりして乗り越えていく――すると、根は必ず強くなり、よりよい力を吸収できるようになっていくのではないでしょうか。子供のために風を遮ったり、転ぶ前に穴を埋めたり、石を全部きれいに取り除いたりすることは、本当に子供のためになるのでしょうか。

子供が自分の力で乗り越えることが難しいときや、風が強過ぎるときは、一番の味方である親が「今が子供が育つとき！」と考え、風を遮るのではなく、一緒に乗り越えていく工夫を考えたり、下からそっと支えてあげたりすれば、根が強く太くなっていくのでしょう。

学校は、子供たちにとって小さいけれど最大の「社会」です。大人の社会と同様に、嫌なことや、やりたくないことをしなくてはいけないこともあります。人と喧嘩をしたり、トラブルを起こしたりすることもあります。辛くても頑張らなくてはいけないことがあります。私たち大人社会と同じなのです。でも、学校社会は必ず頑張ったことが認められる場です。必ず正しい人が認められる場です。子供はそんな学校社会の中で強く、たくましく、よりよく、本当の社会を生き抜く力を学んでいくのです。

冷たい風、試練こそしっかり大地に根を張るチャンス、人間性を高め、成長するチャンスととらえ、負けずに、逃げずにぐっとこらえ、工夫して、仲間と一緒に乗り越えていける子供たちであってほしいと願い、そのような子供を育てる学校でありたいと思っています。

令和４年度も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様、地域の方々から本校にご理解ご支援いただきましたことに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。